

富山経協



ニュウゼンオトメキクザクラ(解説・14ページ)

CONTENTS

- 2 「一般社団法人」発足のご挨拶
- 3 2012年度事業計画[基本方針]
- 4 TOP INTERVIEW
東洋ゼンマイ 長谷川光一社長
- 6 調査報告
2012年4月新卒者の採用に関する調査結果
- 8 2012年度 富山経協 年間スケジュール
- 10 理事会(報告)
- 10 業務日誌
- 10 Keikyo行事レポート
- 12 参加者NOTES
- 14 新会員紹介
- 14 会員の動き
- 15 景況指標
- 16 おしらせ・行事予定

「一般社団法人」発足のご挨拶



一般社団法人 富山県経営者協会

会長 稲垣 晴彦

「楽しみは朝起き出でて昨日まで無かりし花の咲けるみるとき」

これは天皇陛下が訪米された折に、当時のクリントン大統領が歓迎のスピーチで引用した幕末の歌人、橘曙覧(たちばなのあけみ)の歌です。

この度、一般社団法人へ移行しました当経営者協会に対しては、県内の各方面より以前にも増してその公益的な機能への期待が寄せられる事となると思います。その責任の重さを痛感すると共に、多くの経営者と働く人びとが過去20年ほどの間に失ってきた未来に対する希望を再び取り戻して、お互いが生き活きと仕事をできる環境を再構築する事に少しでも貢献して参りたいと存じます。

そのためには会員基盤の拡大や調査研究活動の充実、会員ニーズに則した講座やセミナーの展開は元より、委員会活動など会員の皆様が集う場をお互いとその生の姿や様々な悩みを本音で話し合えるような場にしていくこと、そしてその中から新たなソリューションを導き出していくことが必要でありましょう。このような事を通じて、当協会として新しい花を咲かせていくことを期待しております。

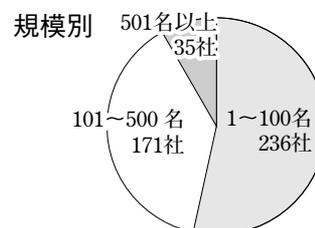
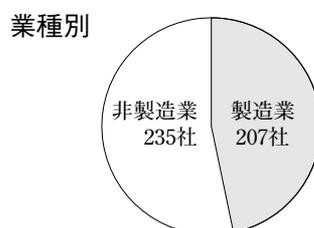
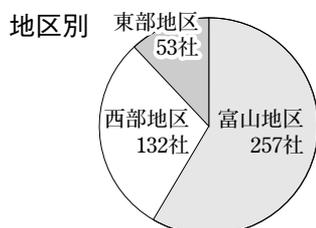
「楽しみは良き姿目指す同胞(はらから)と心ひろげて語り合う時」

会員の皆様の一層のご参画、ご協力をお願い申し上げます。

富山県経営者協会は、一般社団法人へ移行しました (関連記事10頁掲載)

富山県経営者協会の現況

会員数：442社 (2012年4月1日現在)



(常用従業員数：計97,000人 … 富山地区50,000人、西部地区32,000人、東部地区15,000人)

2012年度 事業計画 [基本方針]

2011年は、東日本大震災という未曾有の大災害で始まり、超円高、そしてヨーロッパ諸国の経済危機など国内外で予想不能の混乱が多発した年であった。日本経済は数年来の国家の財政不安やデフレにエネルギー供給などの新たな要素が加わって6重苦とも7重苦とも言われる困難に直面し、県内においてもほとんどの企業が何らかの影響を受けることになったと思われる。

経営者はこの大きな転換期をチャンスとし、自らの殻を破って、前向きに自社の存続そして成長につなげる大胆なビジョンを描き、それを実現するために、自らが先頭に立ち、進んでいかなければならない。そうした日々の努力に裏付けられた企業の存続・発展が社会に付加価値として還元され、地域の安定につながる。

一般社団法人富山県経営者協会は、富山県という地域社会と、経済界を担う経営者という観点に立ち、地域の業種や規模を問わない経営者の集う「経済団体」としてのありべき姿を常に見直し、行動し、結果を出すことにより、その役割を果たしていく。

具体的には、多様化する会員ニーズに対応し、経営課題の研究・広報を行う、きめ細かい教育・研修をはじめとする事業の展開、情報交換を行う、労使関係の充実を目指した提案を行うことなどにより、会員企業の更なる繁栄につなげていく。

また、地域社会における民間の経済団体の代表格である位置づけの責任を果たすため、行政の雇用安定や地域振興の取り組みへの支援を行い、他経済団体との連携を深めて、地域社会の発展に努める。

以上の実現を目指し、2012年度の事業活動を以下のとおり行う。

- 1 企業の存続なくして雇用はありえない。このいわゆる6重苦の企業環境においては個々の企業の経営努力には限界があり、緊急雇用、人材育成対策などの公的な支援制度を会員企業が有効に活用できるよう広報活動を進めていく。
- 2 企業の繁栄の源泉は究極的には人材力である。会員企業各社の実情に適合し、そこで働く人がより働きがいを感じる人事処遇制度の実現に向けての支援を強化する。
- 3 外部からの刺激や文化、制度、技術に目を向ける。行政並びに他の経済団体との連携、さらには海外企業の取り組みを学ぶことにより、協会の各種事業の強化と充実を図っていく。
- 4 公益的な機能を充実する。一般社団法人へ移行を機に、公益性を高める改革を逐次進めると同時に、経営者団体としての役割を果たすために、会員増強と会員相互協力のある委員会活動への各社担当責任者の参画を促進していく。

ゼンマイの可能性追求 無電源の商品価値高まる

東洋ゼンマイ株式会社
代表取締役社長

長谷川 光一 氏



3代目とお聞きしています。1930年の創業以来、どのように社業を発展させてこられたのでしょうか。

祖父が鋼を熱処理する会社を興したのが前身で、まず、柱時計や蓄音機のゼンマイ製造から始めました。時計のゼンマイは高精度を求められ、トルク（力・回転量）が常に一定でないといけません。それを実現するためには、壊れず、均一な硬度と弾性、寿命の長い素

材が必要です。当社はこの3つの特性を保つ素材加工技術を長年培ってきました。バネ鋼を仕入れた後は一貫生産のため、色々な用途に応じた精密なゼンマイを生産することができています。

時代とともにゼンマイの用途も変わってきたと思います。

蓄音機がなくなり、柱時計も置き時計も電池化され、ゼンマイメーカーはつぶれるのではと言われ

ました。そのような時、1980年頃に香港に旅行用の折りたたみ時計のゼンマイを納めることになり、輸出を開始しました。また、タイムスイッチが発明され、家電製品の洗濯機や脱水槽、扇風機などのタイマーに使われ、今もオーブントースターやキッチンタイマー、掃除機のコードリールなどにゼンマイが応用されています。

続いて自動車用に需要が生まれ、シートベルトなどに使われています。当社は車内灰皿の蓋や手動式窓に使うゼンマイを作り、その他、エンジンのリコイルスターターのロープを巻き取る部分のゼンマイも製造しています。

おもちゃ用のゼンマイは世界シェア30%です。

時計用のゼンマイを輸出していた香港が世界のおもちゃ製造の拠点だったことから、おもちゃ用のマイクロゼンマイの製造依頼が舞い込みました。現在、当社の売上げは、おもちゃ用が30%、車関係20%、引き戸などのその他が20%。2年前に、東京にあった東京ゼンマイが廃業されるということで、事業継承したりコイルスターター用が30%を占めています。

ものづくりが中国などへシフトしていますが、御社は日本から中国へ輸出を続けていらっしゃいます。

日本で製造を続けられる理由は、一つはゼンマイの材料になる鋼が日本と欧州でしか作れない特殊な素材だからです。バラエティに富んだ仕様のゼンマイを、短納期で仕上げ納めなければならないため、指定した材料が早く入手できる日本で製造した方がいいのです。おもちゃ用ゼンマイは、ボディの重さに合わせて板厚を決め、熱処理で細かな調整をしていきます。当社は試作の結果を熱処理工程に

フィードバックしながら最適なトルクを実現するノウハウを築き上げました。材料をはじめ、技術者の技に頼るアナログ的なものは、真似することは難しいため、海外生産になりにくいでしょう。

—防災など新たな需要開拓—

電気を使わないで動く製品を開発されています。

最初は、電源のない自然のなかで、地域のPRを音声で説明できる装置があればいいなと思い、音声ガイド装置を開発しました。ICチップの登場により、音声データが取り扱いやすくなり、しかもほんの1ワット程の電気で作動します。国際観光に対応するため4カ国語を入れています。京都市や、東京の合羽橋、北海道、種子島など、全国各地の主に自治体から引き合いがあり、この年度末に約20台を納めました。昨年11月にTBSテレビ「夢の扉+」で取り上げていただき受注が増えました。

防災関連にも取り組んでおられるそうです。

東日本大震災後、電気に対する意識が高まりました。東京などでは地震の起きる可能性が高くなり、安心・安全の装置としての需要が見えてきました。音声ガイド装置は電気がなくてもゼンマイを回して、非常時の避難ガイドやラジオを聞くことができ、LEDをつけ

ておけば照明にもなります。避難場所や拠点施設に設置しておけば、色々と活用できます。今後、ハザードマップとラジオをセットするなど、安全・安心の分野で発展させていくことが考えられます。

—水力発電装置開発へ—

新たにゼンマイ式水力発電装置を開発されています。

らせん水車とゼンマイを組み合わせた発電装置を開発中です。らせん水車は大正から昭和初期にかけて、脱穀や田んぼへの引水などに用いるため県内で普及していました。ほんの小さな高低差で作動しますが、発電となるとモーターの抵抗があるため止まってしまう。そこで、ゼンマイにエネルギーをためてモーターを回すようにし、2つのゼンマイが交互に巻き取りと解放（巻き戻し、発電）を行うことで、水車が止まることなく発電し続けることを可能にしました。今後1年をかけて実用化にこぎ着けたいと思っています。

新製品開発室を8年ほど前に作られました。

ゼンマイの応用開発をするために、お客様への提案や試作品づくりを専門とする部署をつくりました。2人体制で新製品開発を行っていますが、今後は全社的な開発室に変えたいと思っています。現在、長男が東京で新しい営業活動



音声ガイド装置 ▶

をしており、ニーズ調査もしています。常に新しいニーズをつかみ、福祉や健康、医療、環境など、今後伸びる分野の方々と連携し、アイデアを出し合って共同開発していけば、ゼンマイも生き延びられると思います。

どのような企業を目指されていますか。

私の夢は、ゼンマイでもっと世界の皆さんの役に立つ製品を生み出していくことです。そのためには、「21世紀のからくり」を作る会社になりたいと考えています。当社の技術者も多岐に渡るお客様の需要を把握し、様々な分野の方とコラボレーションしながら、新しい「からくり」の商品を作り上げていくことが大事です。ものづくりにおいて、経営者と従業員、お客様も含め、三者の間の信頼感が大切です。その信頼感を保つには、自社で開発する姿勢を持つことが重要と信じて取り組んでいます。

— 略 歴 —

1953(昭和28)年生まれ。黒部市出身。名古屋大学工学部卒。1976年東洋ゼンマイ製作所に入社、専務などを経て、1986年東洋ゼンマイ(株)代表取締役社長就任。(株)新川コミュニケーション放送社長も務める。

試作中のゼンマイ式水力発電装置▶



会社概要

東洋ゼンマイ株式会社

創 業：1930年11月

所 在 地：黒部市岡435番地

資 本 金：9,980万円

事業内容：バネ用ステンレス鋼帯、焼入鋼帯、ぜんまいバネ、薄板バネ、ゼンマイ式音声ガイド装置及び応用品の製造販売

従業員数：55人

売上高：5億7,000万円(2011年3月期)

U R L：http://www.zenmai.co.jp/

2012年4月新卒者の採用に関する調査結果

前年比増加、製造業は特に顕著

2013年採用は更に増加の見通し

当協会では標記調査結果をまとめた。これによると、全体の採用総数では2012年4月採用数が昨年比較7.7%の増加となった。産業別の内訳では、製造業で20.3%の増加が見られる一方で、非製造業ではほぼ横這いとなっている。

また、2013年4月採用については、現時点では採用予定の具体的人数を未定としている企業も多く流動的ながら、それらの企業の2012年4月実績を勘案すると本年以上の採用人数が期待される。

中途採用については2011年実績が1,651人あったが、2012年の各企業の採用予定は大幅減少の見込みである。派遣労働者についても同様の傾向が見て取れる。

〔調査対象企業等〕

調査対象は、当協会会員企業440社(2月1日現在)。184社から回答をいただいた(回収率41.8%)。内訳は製造業100社、非製造業84社である。

この調査は1995年より毎年行っているもので、今回は18回目に当たる。

■新卒者の採用状況

1. 2012年4月採用

新卒者の採用状況を全産業・全学歴計で見ると、2011年の1,368人に対して2012年は1,474人(106人増、+7.7%)と、前年比増加となった。

産業別で見ると、製造業では2011年の580人に対して2012年は698人(118人増、+20.3%)と増加した一方で、非製造業では2011年の788人から2012年は776人(12人減、△1.5%)の微減となった。

次に、学歴別にみると、高校卒では2011年の446人から2012年は504人(58人増、+13.0%)、大学院卒では165人から200人(35人増、+21.2%)と、製造業を中心に増加したのに対し、その他の大学卒、短大・高専卒、専門・専修卒はほぼ横這いとなっている。

(図表1)

2. 2013年4月採用(予定)

2013年4月採用予定人数について具体的数値で回答があった108社の合計は1,090人で、同じ108社の2012

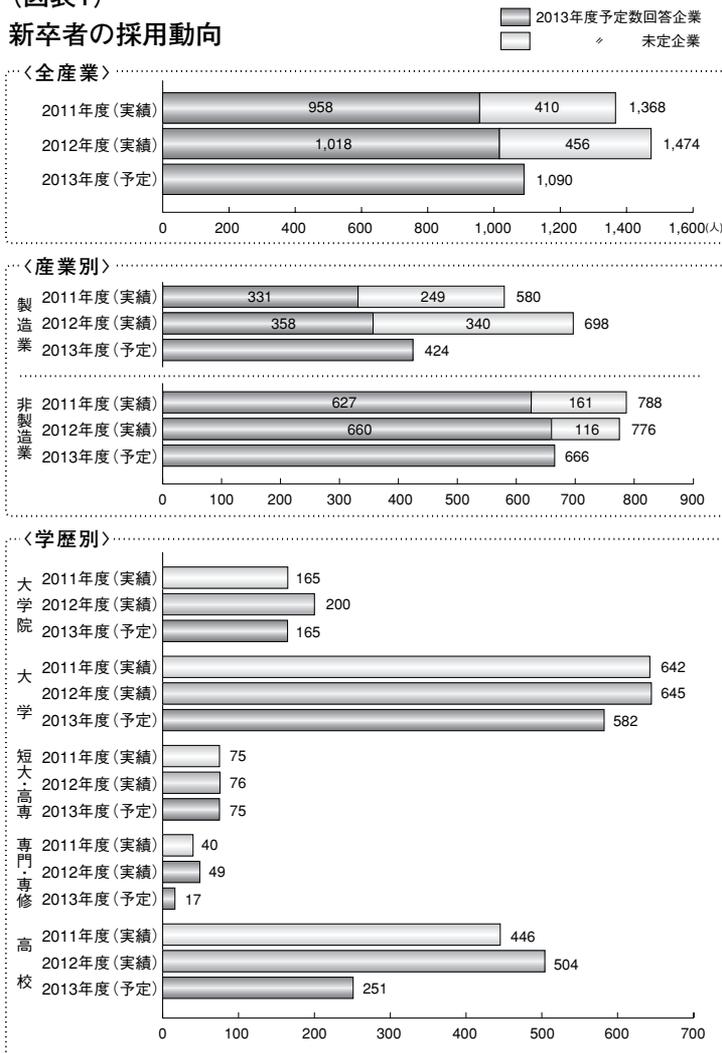
年4月採用実績1,018人と比べて72人増(+7.1%)となっている。また、2013年4月採用予定数を未定としている企業(以下「未定先」と言う)が53社(2012年4月の採用実績456人)あり、更なる上積みが見込まれる。

産業別に比較してみると、製造業では2013年4月採用予定人数について具体的数値で回答があった72社の合計は424人であり、同じ会社の2012年実績358人と比べて66人増(+18.4%)となっている。業種別では「一般機械」が150人と回復、「金属製品」も83人となっている。

一方、非製造業では、2013年4月採用予定人数について具体的数値で回答があった59社の合計は666人であり、同じ会社の2012年実績660人とほぼ横這いとなっている。業種別では、「金融・保険」の243人、「電気・ガス」の138人のほか、「卸・小売業」「情報・通信」が100人以上の採用を予定している。

(図表1、表2)

(図表1)
新卒者の採用動向

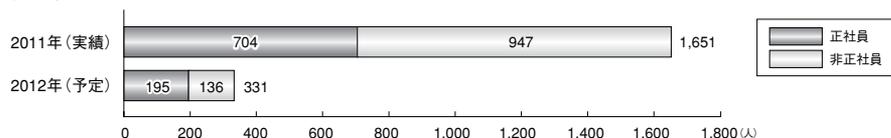


(表2)
2013年度業種別採用予定状況

(単位：人)

産業区分	回答企業数		採用予定人数
	うち未定		
食料品製造業	2	1	4
繊維工業	2	1	5
パルプ・紙・紙加工品製造業	3	1	3
印刷・同関連業	5	1	9
化学工業、薬品製造業	23	9	53
プラスチック製品製造業	8	2	16
鉄鋼・非鉄金属製造業	3	1	24
金属製品製造業	17	4	83
一般機械器具製造業	18	5	150
電気機械器具・電子部品製造業	10	0	47
輸送用機械器具製造業	6	3	13
その他製造業	3	0	17
製造業計	100	28	424
建設業	13	2	30
電気・ガス業	3	1	138
運輸業、倉庫業	12	7	7
情報サービス・通信業	9	3	103
卸・小売業	24	5	104
金融・保険業	6	2	243
サービス業、その他	17	5	41
非製造業計	84	25	666
全産業計	184	53	1090

(図表3) 中途採用動向



■中途採用の状況

回答企業184社中、2011年中(1~12月)に中途採用を行った企業数は145社で全体の78.8%、2012年中の採用予定企業は72社で39.1%である。未定とする企業は、35社(19.2%)あった。

次に、中途採用者数についてみると、2011年の採用者数は1,651人、2012年の予定は331人(1,320人減、△80.0%)であり、大幅に減少している。

また、中途採用者のうち正社員として採用されているのは、2011年は1,651人中704人(42.6%)、2012

年は331人中195人(58.9%)の予定となっている。

(図表3)

■派遣労働者の状況

2011年中(1~12月)に派遣労働者を採用した企業は、184社中89社(48.4%)であった。2012年中では57社(31.0%)が採用を予定している。未定とする企業は、23社(12.5%)あった。

派遣労働者採用人数(延べ)を年別にみると、2011年中は8,643人、2012年中は5,491人(3,152人減、△36.5%)の採用を予定している。

2012年度 富山経協

活 動 方 針		区分	4 月	5 月	6 月	7 月	
全体行事	・富山県下のあらゆる業種・規模の企業を会員とする民間の経済団体として「経営と人」の問題について取り組む。	会議・事業	理事会(4月2日)	理事会(5月7日) 定時総会 講演会・座談会 (5月28日)		北陸三県正副会長会議 (7月6日) 理事会 西部地区会員懇談会 (7月12日)	
		総務委員会	1.協会の運営上の問題を取り扱い、適切な事業計画の策定に努める。 2.ブランド力向上のため会員増強運動を継続する。 3.会員相互の連携強化に努め、組織の活性化を図る。	会議・事業			
総務委員会	社内コミュニケーション部会	活動		実務講座 合評会			
	総務部会	活動		連絡会		連絡会 企業見学研修会	
人事・労務政策委員会	1.労働法制、人事・労務管理に関する研究と成果の提供を図る。 2.人事処遇等の調査活動を充実させ、タイムリーに成果を提供する。 3.労働関係法を実務に即して学び、適正な人事・労務管理を図る。 4.良好な労使関係の維持確立に努める。	事業		人事・労務管理 セミナー(第1回) (5月18日)	労働法実務研修会 (第1回) (6月19日)	人事・労務管理 セミナー(第2回) (7月24日)	
		研究部会	活動	幹事会	定例委員会		
	・労働法関連法制研究部会 事例・判例研究を中心に労働問題に関するスキル向上 ・メンタルヘルス対策研究部会 メンタルヘルス関連情報の共有で各企業の対策に寄与	活動		メンタルヘルス 対策研究部会	労働法関連法制 研究部会		
教育委員会	1.会員企業のニーズを反映した企業内教育を補完する講座・セミナーを開催し、会員企業の社員教育、社員の資質の向上の一助とする。 ①「階層別教育」は、異業種交流を前面に打ち出し、講座の内容を見直し実施する。 ②「職能別教育」は、営業、事務間接、生産それぞれの部門を対象に、職務能力の向上と課題解決を図るため、新しい考え方や最近の企業事例を加え実施する。参加各社との情報交換・意見交換を行う。 2.特定テーマの事例研究や教育課題の情報交換を行う。	階層別教育	新入社員講習会 (4月4日)		中堅社員活性化 コース<2日間> (6月6・7日)	監督者(係長・主任・ 班長)基礎コース <2日間> (7月3・4日)	
		職能別教育	管理職マネジメント研修 ——(～5月12日)——▶		営業力基礎コース<2日間> (5月16・17日) ビジネス・マネー 習得コース (5月22日)	IE手法による 生産現場の改善 (6月13日)	
		会議			定例委員会		
		研究部会	・特定テーマについて調査・研究し、情報発信を行う。	活動		研究部会	研究部会
品質管理委員会	1.「顧客第一、品質優先」の基本思想の徹底と、科学的管理手法やISO、TPM、IE等の普及・浸透を図る。 2.階層別・分野別の品質管理教育を実施し、経営主導による全部門、全員参加の品質経営活動の展開と推進を図る。 3.品質管理担当者相互の情報交換、啓発・啓蒙活動に取り組み、会員企業の品質管理活動の活性化、レベルアップを図る。	事業	品質管理入門コース 講座(第1回) (4月5日、11日、 19日、26日) <4日間>		県内企業見学研 修会	部課長マネジメ ントコース講座 (7月11日～13日)	
		会議	定例委員会			品質工学実践講座<10日間> ←← 品質管理セミナー「実践しながら学ぶ統計的手法	
環境委員会	1.環境負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築に向けて、企業経営の視点から省資源・省エネルギーや地球温暖化対策等の調査、研究に取り組む。 2.環境マネジメントの国際規格に対処するため調査、研究に取り組む。 3.関係団体の活動を調査し、連携を図る。 4.環境・産業廃棄物担当者の相互啓発を図る。 特定テーマ「地球温暖化対策」、省エネを含めた「地球温暖化対策」をテーマとしたセミナー等により勉強を進める。	事業				地球温暖化対策 セミナー (第1回) 県外企業見学研 修会	
		会議	情報交換会		情報交換会		
文化交流委員会	・企業における文化的な面をテーマとした相互交流、多様なふれあいの場を設け、会員企業の各階層の相互啓発、活性化をサポートする。	事業 会議					
経営特別委員会	1.経営者・経営層を対象とした経営課題に関する研究・調査を行い、その成果を情報発信するとともに、経営理念や方針等を社員に浸透させる取り組み・仕掛けについての勉強会・見学会を企画・実施する。 2.企業環境の変化に対応し、広く企業経営に関する重要課題を委員間で議論・意見交換し、その中で浮かび上がった緊急課題は理事会に提言し、協会の政策立案につなげる。	会議・事業	委員会		委員会		

年間スケジュール

8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	2013年 1 月	2 月	3 月
	理事会 富山地区会員懇談会 (9月12日)		理事会 東部地区会員懇談会 (11月12日)		新春互礼会 (1月4日)		理事会 幹事会
定例委員会	会員企業名簿の発行 下期スケジュール表の 発行			定例委員会		年間スケジュール 表の発行	
企業見学研修会			定例部会 合評会 実務講座				
	連絡会		定例部会 連絡会		研修会 連絡会		定例部会 連絡会
	労働法実務研修会 (第2回) (9月25日)	人事・労務管理 セミナー(第3回)	労働法実務研修会 (第3回) (11月16日)			労使交渉セミナー (2月上旬) 労働法実務研修会 (第4回)(2月27日)	連合富山との懇談会
定例委員会			幹事会	定例委員会		定例委員会	
	労働法関連法制 研究部会		労働法関連法制 研究部会			労働法関連法制 研究部会 メンタルヘルス 対策研究部会	
女性社員活性化 セミナー (8月8日)	女性リーダー活性 化セミナー (9月6日)	係長・主任実践 コース(第1回) <2日間> (10月3・4日) 若手社員活性化 コース(10月19日)	管理者基礎コー ス<1泊2日> (11月9~10日)			係長・主任実践 コース(第2回) <2日間> (2月19・20日)	
← 経営幹部養成コース(9月~2013年5月) →							
「ものづくりと現場 改善」実践塾	改善力養成セミ ナー・基礎編 (9月27日) 経理・財務の基 礎コース	事務・間接(スタ ッフ)部門の効果 的業務改善の進 め方 (10月17日)	コスト改善力実 践コース (11月15日)	「5S+10目で見 る管理活動」実践 コース (12月6日)		購買管理実践 コース (2月26日)	CS(顧客満足) 基礎セミナー (3月上旬) 改善レベルアップ セミナー・応用編 (3月7日)
定例委員会 (事例研究)			定例委員会	定例委員会			
	研究部会	研究部会					
経営トップミー ティング	ヒューマンエラー 対策講座<2日間> (9月18・19日)	品質トラブル未然 防止セミナー (10月12日) 県外企業見学研修会 品質管理入門コ ース講座(第2回) <4日間>	ISO9001内部監 査員養成コース <2日間> ものづくり品質 管理セミナー				
← (4月20日~10月12日) →							
活用講座<15日間>(5月10日~10月11日) →							
	定例委員会			定例委員会		定例委員会	
富山県生活環境 文化部との情報 交換会	地球温暖化対策 セミナー (第2回) ISO14001内部環 境監査員養成コ ース<2日間>	県内企業見学研 修会	事例発表会			「事例発表会」 報告書発行	講演会(後援)
定例委員会 幹事会	情報交換会	情報交換会	定例委員会 情報交換会	幹事会			
企業見学研修会		ゴルフコンペ (10月20日)	ボウリング大会 (11月中旬)	講演会			
定例委員会				定例委員会			
委員会		委員会		委員会			委員会

理事会(報告)

4月より一般社団法人へ移行

4月2日(月)17時から、稲垣会長はじめ副会長7名と監事3名、専務理事が出席して、一般社団法人に移行して初めての理事会を、富山経協・会議室で開催した。

稲垣会長の挨拶の後、①2012年度活動方針②同予算案③理事と法人間の利益相反取引④新委員会体制⑤新会員について審議し、承認された。次に、①2011年度事業実績②年間スケジュール③新就業規

則④事業継続計画の現状調査報告書について報告があり、それぞれを確認した。

3月度 理事会

3月5日(月)17時から、社団法人として最後の理事会を、稲垣会長はじめ副会長ら理事54名が出席して、富山第一ホテルで開催した。

2011年度事業報告の審議、2011年度収支決算案の承認、一般社団



法人移行への対応承認、新会員の承認が議事につけられ、いずれも異議なく、満場一致で承認、決定された。

理事会後には石井知事をお招きして、懇親会を開催した。

Keikyo 行事レポート

業務日誌

2012年1月11日～4月2日

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加者数
会 議	労働法制研究部会	人事・労務政策	1月11日(水)	富山経協・研修室	19名
	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	2月14日(火)	中越合金鑄工(株)	19名
	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	2月22日(水)	富山経協・研修室	35名
	総務委員会「定例委員会」	総務委員会	2月28日(火)	富山電気ビル	9名
	連合富山との懇談会		3月5日(月)	A N A クラウンプラザホテル	8名
	理事会		3月5日(月)	富山第一ホテル	54名
	文化交流委員会	文化交流	3月21日(水)	富山経協・研修室	8名
	理事会		4月2日(月)	富山経協・会議室	12名
セ ミ ナ ー ・ 講 座	労働法実務研修会	人事・労務政策	1月11日(水)	富山商工会議所ビル	43名
	総務部会・研修会	総務	1月17日(火)	富山経協・研修室	9名
	管理職マネジメント研修(第5回)	教育	1月18日(水)	富山県農業総合研修所	23名
	2012年度労使交渉セミナー	人事・労務政策	2月8日(水)	富山商工会議所ビル	26名
	第2回 係長・主任基礎コース	教育	2月14・15日(火・水)	富山県市町村会館	59名
	購買管理実践コース	教育	2月21日(火)	富山商工会議所ビル	37名
	管理職マネジメント研修(第6回)	教育	2月24・25日(金・土)	富山県農業総合研修所	24名
	C S 顧客満足基礎セミナー	教育	3月7日(水)	富山経協・研修室	28名
	管理職マネジメント研修(第6回)	教育	3月14日(水)	富山県農業総合研修所	21名
改善レベルアップセミナー～応用編～	教育	3月15日(木)	富山商工会議所ビル	69名	

連合富山との懇談会

「連合富山と富山県経営者協会との懇談会」が3月5日(月)、ANAクラウンプラザホテル富山で開催された。富山経協からは稲垣会長はじめ、武内、綿貫、桑名、笠井副会長、片芝人事・労務政策委員会副委員長など8名が、連合富山からは森本会長ら8名が出席した。

はじめに、森本会長から稲垣会長に、①賃金の引き上げ②中小・地場企業の賃金改善③非正規労働

者を含めた全労働者を対象とした賃金をはじめとする待遇改善④ワーク・ライフ・バランスの実現⑤最低賃金の引き上げを求める要請書を手渡し、「労使が成長戦略について認識を共有し発展し合わないといけない」と挨拶した。これを受けて稲垣会長から、「国内経済の20年間の停滞で格差社会が生じており、一朝一夕での解決は難しいが、成長がなければ解決することはできない。労使で長期の成



長戦略を描いて、そこに向かっていくしかない」との挨拶があった。

その後、自由討議に入り、内需・外需を取り巻く経済環境、「人材力」強化の必要性などについて、意見交換を行った。

総務委員会

■定例委員会

2月28日(火)、武内委員長はじめ委員9名が出席して、富山電気



ビルで開催した。

3月5日開催の理事会付議議案について審議・承認の後、今後の調査業務の予定を報告、また4月2日開催の理事会での決定を経て、定時総会後に文化交流委員会と統合予定であることが説明された。

■総務部会「研修会」

1月17日(火)、委員9名が参加して、富山経協・研修室で開催した。東京海上日動リスクコンサルテ



ィング(株)執行役員ビジネスリスク事業部長・江里口隆司氏を講師に「東日本大震災と事業継続計画(BCP)」について学び、今後の参考とした。

人事・労務政策委員会

■定例委員会

2月22日(水)、綿貫委員長はじめ35名が出席して、富山経協・研修室で開催した。

綿貫委員長の挨拶の後、「富山県県内企業の障害者雇用～現状と今後～」と題し、富山県障害者就業・生活支援センター就業支援ワーカー小原良徳氏から、支援機関や制度の説明を受けた後、「民間企業での障害者雇用の仕組み作りと先進事例－佛子園の取り組みから学ぶ－」と題し、同園理事長の雄

谷良成氏から「障害者と健常者が一体となって就労活動し多くの成功例が出ている」など事例を交えた説明を受けた。

引き続き、「現状の問題点解決の糸口を探る－成功例を参考にし－」をテーマにディスカッションを行った。助成金が占める役割や先進企業の事例などについて質問が相次ぎ、活発な議論が行われた。

■労働法実務研修会(第4回)

1月11日(水)、「内部告発と情報利用に関わる問題点」をテーマに、



43名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

第一芙蓉法律事務所の木下潮音弁護士は、企業のコンプライアンスの向上の観点から、従業員の内部告発は重要な問題発見のきっかけであり、正当な内部告発者を保

護することは公益通報者保護法のもとでも、その他の法令においても企業の義務となっているなど、改めて内部告発と情報利用に関する問題点を検討することが重要だとし、判例を交え詳しく解説した。

■2012年度労使交渉セミナー

2月8日(水)、「2012年労使交渉・協議に向けての経営側のスタンス」をテーマに、26名が参加し富山商工会議所ビルで開催した。

日本経済団体連合会労働政策本部 鈴木重也主幹は、東日本大震災、電力供給制約、行き過ぎた円高、タイの洪水、欧州の政府債務危機問題の拡大など、わが国企業にとって厳しすぎる試練が続いている。また、産業空洞化の一層の進展等により、わが国産業の行く末が案じられ、企業の存続すら危ぶまれ



ている。「国内雇用の維持」や「雇用の創出」などについて徹底的な話し合いが必要であり、労働側が昨年に引き続き1%を目安とした

賃金改善を要求していることは、企業の危機的な経営環境に対する認識が甘いといわざるを得ないとした。

基本的な考え方として、①賃金の決定は、総額人件費を管理する観点から自社の支払能力に即して判断することが重要、②一時的な業績変動は、賞与・一時金に反映することが基本であるなど、具体的な解説があった。

教育委員会

■第2回係長・主任基礎コース

2月14・15日(火・水)、59名が参加して、富山県市町村会館で開催した。

講師の佐藤克昶(たかてる)ヒューマン・クリエート代表が、今日の企業環境変化と係長主任の役割、



仕事の管理と問題解決、人間行動

参加者 NOTES

教育委員会

「係長・主任基礎コース」を受講して

ダイヤテックス株式会社
商品開発グループ 主任 水島 洋一



2月14日、15日の2日間にわたり、係長・主任基礎コースを受講させて頂きました。講義は大きく4つのセクションに分かれ、その中でチェックシートを用いた自己診断、グループに分かれてのケース研究等があり、単純に講演を聴くだけのセミナーとは違い、非常に充実した講義内容でした。

講義の最初では、過去と今日では社会情勢等の外部環境が日々激しく変化しており、企業の経営環境もまた大きく変化していく中で、係長・主任としてどのような心構えが必要か、またどのような役割が求められているかを学びました。

ここでは、講師の先生が経験されてきた様々な事例を交えて講義頂き、「あたりまえのことをあたりまえにやっている企業は強い」ということ、「経済学も重要であるが、これからの日本の企業は経営学を中心に考えるべき」という言葉が強く印象に残りました。

チェックシートを用いた自己診断では、6大能力のチェックや、現状のリーダーシップスタイルはどのような位置付けにあるか等の診断を行い、今までの行動を見つめ直す良い機会になり、自分自身に足りなかった能力や課題点を、改めて確認する事ができました。

グループ討議では、A係長の行動について課題設定がなされ、問題点、改善点をグループ内で討議、発表致しました。設定の内容は「係長と部下との関係」に関するもので、部下に対してどのようなリーダーシップを取るべきか、部下への指導・育成方法の問題点はどこにあるのか等、グループ内で様々な意見が飛び交いました。他のメンバーの方々も、業種の違いはあるものの、皆同じような悩みを抱えており、自社の問題点や良い点等、自然と各社の情報交換の場にもなり、たくさんの刺激を得ることができました。

最後に、このような貴重な経験を得られた事に感謝し、今回の講習で身に付けた知識や手法を積極的に活かし、今後の成果に繋げていきたいと思っております。講師の佐藤先生ならびに主催者の皆様ありがとうございました。

の理解と部下育成、リーダーシップと職場の活性化などについて講義。ケース研究や、診断、活発な意見交換を通して学んだ。

(「参加者NOTES」12頁に掲載)

■購買管理実践コース

2月21日(火)、「購買担当者の基本実務と実践」について、37名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。



講師の(有)野本経営研究所野本満雄代表取締役は、激しい国際競争と深刻化しつつある産業の空洞化等、企業環境の厳しさが増す中で、購買・発注担当者の真価が問われる時代になった。受注が減り、発注が減る中でも成果を上げなければならない。担当者は、①業務に精通する②成果を目に見える形で確実に出すことが重要である。購買管理の進め方については、バイヤーは会社の代表であることを忘れない。また、調達品のコストダウン活動は商品企画や開発設計

段階からスペックを見直す等「安く買える条件作り」が不可欠となる。全社活動を展開することと長い間慣れ親しんだ社内慣習やルール、具体的には設計のルール、受け入れ検査基準、部材の廃棄ルール等を果敢に改革することが大切であると具体的事例を交えて指導した。

■CS顧客満足基礎セミナー

3月7日(水)、28名が参加して富山経協・研修室で開催した。

(株)フォーワン植木悟代表取締役は、グローバル市場主義下で需要側＝市場・顧客側に主導権が移った時代にあって、あらゆる部門・業務を「顧客満足・顧客価値」の視点から見直すことが最重要の経営課題であるとして、業績にリンクするビジネス＝事業の本質(戦略的CS観)、顧客(市場)・価値(製品)戦略の方向性、顧客にどんな価値を提案できるのかなどについて、事例やグループ討議を交えて解説した。



■改善レベルアップセミナー ～応用編～

3月15日(木)、69名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。改善活動を「指導・推進・牽引」するための具体的ノウハウを研究し、改善エキスパートの育成や改善活動をレベルアップするため実施した。



日本HR協会KAIZEN事業部コンサルタント 東澤文二講師は、今こそ手間をかけず、カネをかけず、知恵を出して「工夫」する改善が必要である。特に改善を書き出して「簡単な事例集」として共有化すれば「持続・継続→定着化→活性化」につながる。また、参加企業の改善活動で生じる個別の問題・課題や改善活動を指導・推進するための方策について、具体的事例に基づき詳しいアドバイス、研修レビューが行われた。

文化交流委員会

■委員会

3月21日(水)、桑名委員長はじめ委員8名が出席して、富山経協・研修室で開催した。



4月2日開催の理事会での決定を経て定時総会後に総務委員会と統合予定であることが説明された。

品質管理委員会

■定例委員会

2月14日(火)、町野委員長はじめ委員19名が出席して、中越合金鋳工(株)において開催した。

今回は2012年度講座・行事の担当割りについて審議した。講座・行事毎に担当委員を半数程度変更することとし、事務局から各委員

に対して希望を取り調整することとした。

委員企業見学では、中越合金鋳工(株)朽木品質保証部部長から、企業概要、品質管理取り組み状況について説明を受けた後、銅製品の鋳造工程・加工工程を見学した。見学後、質疑応答ならびに意見交換を行った。

新会員紹介

(50音順)

■ 朝日化工株式会社

所在地 小矢部市泉町7番1号
代表者 代表取締役 岸川 吉隆
設立 1967(昭和42)年5月
資本金 2,000万円
従業員 16名
事業内容 肥料・土壌改良材等の製造



■ 司法書士 大島・杉本合同事務所

所在地 富山市越前町3番5号
谷川ビル3F
代表者 代表 大島 徹也
創業 2000(平成12)年5月
従業員 6名
事業内容 司法書士業



会員の動き

(50音順) (敬称略)

■ 代表者の変更

朝日印刷株式会社

代表取締役社長 浜 尚 (前:河村孝一)

関西電力株式会社 北陸支社

北陸支社長 吉津 洋一 (前:中島 宏)

共栄火災海上保険株式会社 富山支店

富山支店長 野口 哲也 (前:藤 保美)

コマツキャストックス株式会社

代表取締役社長 佐々木一郎 (前:佐藤泰樹)

JFEマテリアル株式会社

代表取締役社長 鷲尾 勝 (前:松本敏行)

富山トヨタ自動車株式会社

代表取締役社長 品川祐一郎
(前:代表取締役会長 品川洋一郎)

株式会社 富山村田製作所

取締役事業所長 森安 勝幸 (前:椎村二郎)

日本曹達株式会社 高岡工場

取締役工場長 菊池 昭彦 (前:鷹見伸佳)

明治安田生命保険相互会社 富山支社

富山支社長 横田 雅敏 (前:岡島清隆)

株式会社 名鉄トヤマホテル

総支配人 益田 貴司 (前:取締役社長 山本輝幸)

■ 役職位の変更

株式会社 藤井産業

代表取締役会長 藤井 裕久 (前:代表取締役社長)

株式会社 ホライズン・ホテルズ 富山ホテル事業所

(ANAクラウンプラザホテル富山)

ホテル総支配人 久米 剛 (前:ホテル支配人)

■ 所在地変更

株式会社 シキノハイテック 本社・魚津工場

〒937-0041 魚津市吉島829番地 (前:魚津市江口2184)



表紙の花 ニュウゼンオトメキクザクラ

寒さが厳しかった今年の冬も終わり、いよいよ春本番を迎えました。春の花の代表といえばサクラですが、今回はその中でも今年2月にマスコミ各社で報道され話題となった新品種‘ニュウゼンオトメキクザクラ’を取り上げました。

サクラは通常、1つの花に5枚の花弁があるのが普通ですが、変異品や栽培品種には花弁が増加したのがあり「八重桜」と総称されます。その中でも極端に花弁が増え100枚以上に及ぶものは特別に「菊桜」とよばれ、重ねの厚い菊を思わせる美しい花は見事なものです。「菊桜」と総称されるものは現在全国で20品種あまりが知られていますが、そのうちの約半数は石川県から報告されたもので、長らく石川県の専売特許のように扱われてきました。

しかし、2006年から開始した中央植物園のサクラの栽培品種調査研究の結果、富山県にも独自の「菊桜」があることが明らかになってきました。‘ニュウゼ

ンオトメキクザクラ’は4品種めとなる富山県独自の「菊桜」で、入善町にある国指定天然記念物「杉沢の沢スギ」林内で県ナチュラリストによって発見されたものです。非常に細長い100枚に及ぶ花弁からなる花は、一見したところサクラとは思えないほど風変わりで、繊細な美しさがあります。また、花弁が散りにくいため開花期が長いのも特徴で、4月20日頃から2週間以上にわたって花を楽しむことができます。

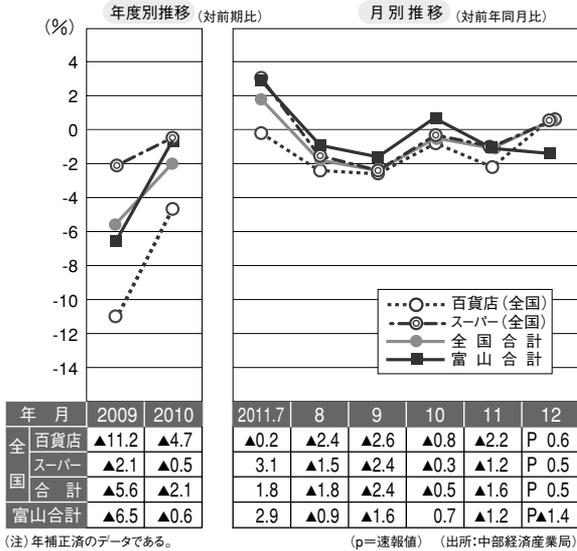
中央植物園ではこのような県独自の新品種を増殖する研究も、県立中央農業高校などと協力して行っています。昨秋は小矢部市の菊桜‘ジョウキョウジテマリザクラ’の増殖成功が大きな話題となりましたが、今後も富山ならではの品種の増殖・普及を通して、富山県の園芸や観光資源の発展に貢献できればと考えています。(富山県中央植物園 大原隆明)



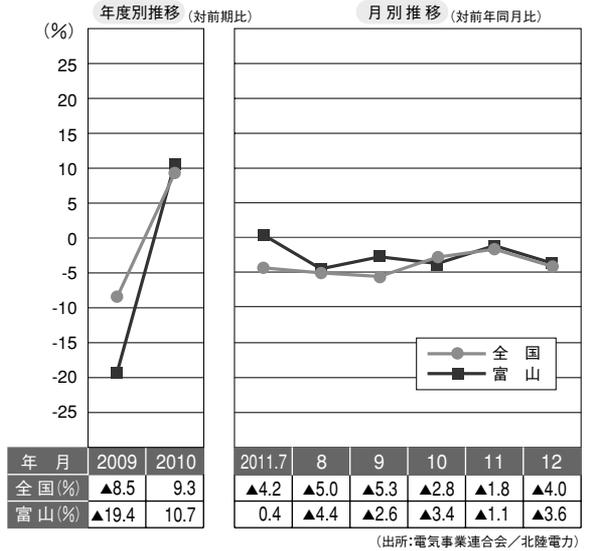
ジョウキョウジテマリザクラ

景況指標

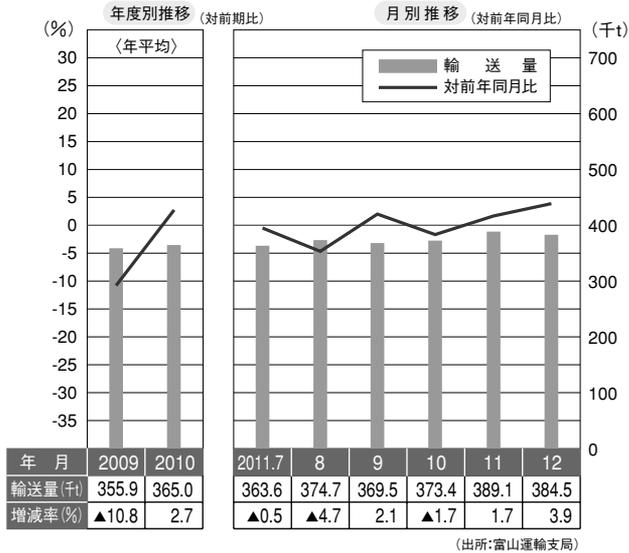
■百貨店・主要スーパーの売上高



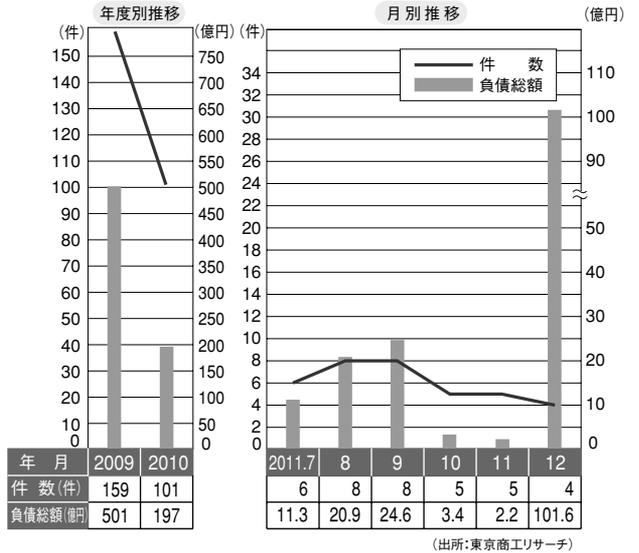
■大口電力消費量 (製造業計)



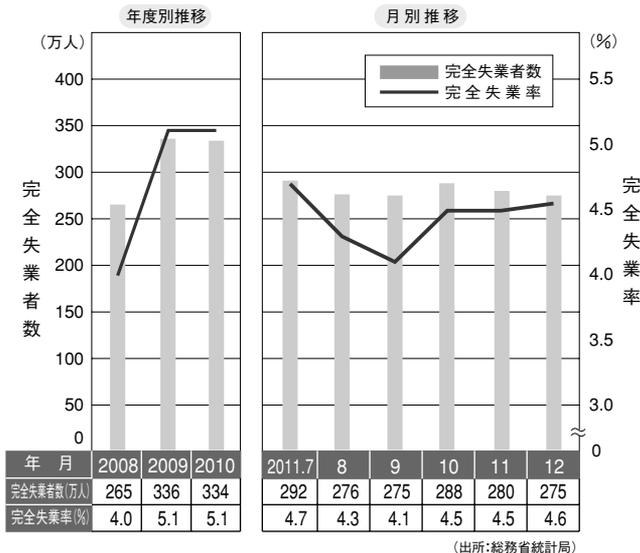
■一般貨物自動車輸送量 (富山県内)



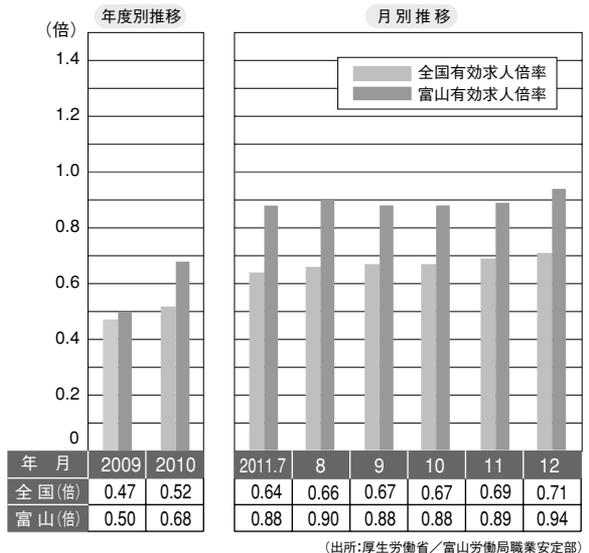
■企業倒産 (富山県内) (件数と負債総額)



■完全失業者数及び完全失業率 (季節調整値)



■有効求人倍率 (パートを含む季節調整値)



5月28日(月)

② 講演会・座談会 16時15分～18時30分

① 富山経協 定時総会

時間：15時30分～16時00分

場所：ANAクラウンプラザホテル富山 3階「鳳」

総会の後、セーレン(株)代表取締役会長兼社長 川田達男氏をお招きして、「講演会・座談会」を右記の通り開催いたします。

③ 懇親パーティー 18時45分～20時00分

場所：ANAクラウンプラザホテル富山 3階「鳳」

「100年企業 21世紀の
グッドカンパニーを目指して」

場所：富山国際会議場 3階メインホール

講演会 16時15分～17時30分

講師：川田 達男 氏

セーレン株式会社 代表取締役会長兼社長

座談会 17時35分～18時30分

川田 達男氏

菱沼 捷二氏 (津田駒工業株式会社 代表取締役社長)

朝日 重剛氏 (朝日印刷株式会社 代表取締役会長)

稲垣 晴彦氏 (当協会会長、北陸コカ・コーラボトリング株式会社 代表取締役社長)

行事予定

2012年 4月6日～6月10日

詳しくはホームページ (<http://www.toyama-keikyo.jp/>)
「講座・講演案内」をご覧ください。

	開催日	時間	事業名	委員会名	場所	備考
会 議	4月 9日(月)	15:00～	経営特別委員会	経営特別	富山経協・研修室	
	4月26日(木)	15:00～	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	富山商工会議所ビル	
	5月 7日(月)	17:00～	理事会		富山経協・会議室	
	5月18日(金)	17:00～	メンタルヘルス研究部会	人事・労務政策	富山経協・研修室	
	5月22日(火)	15:30～	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	富山経協・研修室	
	5月28日(月)	15:30～20:00	定時総会・講演会・座談会		ANAクラウンプラザホテル富山 富山国際会議場	上記「おしらせ」参照
セ ミ ナ ー ・ 講 座	4月5(木)・11(水) ・19・26日(木)	9:00～17:00	品質管理入門コース講座	品質管理	富山経協・研修室	
	4月17日(火)	9:00～17:00	管理職マネジメント研修(第8回)	教 育	富山県農業総合研修所	
	4月20・27・ 5月11・25日(金)	9:00～16:00	品質工学実践講座	品質管理	富山経協・研修室	
	5月10・17・24・31・ 6月7日(木)	9:00～17:00	品質管理セミナー 「実践しながら学ぶ統計の手法活用講座」	品質管理	富山経協・研修室	
	5月11・12日(金・土)	9:00～	管理職マネジメント研修(第9回)	教 育	富山県農業総合研修所	
	5月16・17日(水・木)	9:30～16:30	営業力基礎コース	教 育	富山商工会議所ビル	
	5月18日(金)	13:30～16:30	人事労務管理セミナー(第1回)	人事・労務政策	富山経協・研修室	
	5月22日(火)	9:30～16:00	ビジネス・マナー習得コース	教 育	富山商工会議所ビル	
	6月6・7日(水・木)	9:30～16:30	中堅社員活性化コース	教 育	富山商工会議所ビル	

✉ 機関誌「富山経協」発行月変更のご案内

2012年度は、4月、6月、8月、10月、12月、2013年1月に発行します。(基本15日発行)

「富山経協」 vol.799

2012年(平成24年)4月号

2012年4月5日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0083 富山市総曲輪2丁目1番3号(富山商工会議所ビル 別館5階)

TEL (076)421-9588 FAX (076)421-9952

ホームページ <http://www.toyama-keikyo.jp/>Eメール info@toyama-keikyo.jp